

子どもたちを迎える  
ボランティアのみなさん



今日の先生は「池田市立細郷中学校（ほそごう学園）」で数学を教える峯崎先生。3桁の難しい計算問題に挑戦した1年生の男の子（写真右）を「これも正解！素晴らしい！」とほめながら答え合わせでマルを連発。男の子は次の問題を待ちわびていた。

配膳



配膳ボランティアのみなさん。初期から参加している輪木さん（写真中央）は「母が16年間こちらでお世話になっていたの、何かこの施設に関わりたくて」と思いを話してくれた。



この日の献立



巻頭特集



「おいしー！」

# ほほえみ こども食堂

でつながる笑顔



『社会福祉法人 起生会』  
スタッフのみなさん

食事を終えたら楽しい遊びの時間。子どもたちは施設のレクリエーションで使っているボールや色鉛筆を取り出し、のびのびと遊び始める。別のテ

地域を巻き込める  
施設を作りたい

会うことのない施設の利用者と、子どもたちやその家族が交流する地域の交差点となっている。今日も食事や遊びの空気をともにするうちに、世代を超えた会話が自然と芽生え始めた。ケアハウスで暮らす79歳の古川さんは食堂の常連だ。親戚でもある4歳と2歳の姉弟が遊びに来るのを楽しみにしていて、誕生日にはプレゼントを贈り合う仲だそう。子どもたちには勇気をもたらすよ。何事もなしくすくと大人になってほしいと話す。車椅子で食堂にやってきました同じく常連の入居男性は、施設で知り合った小さな姉妹との交流を語ってくれた。部屋に遊びに来てくれたり、文通したり。去年の大きな地震の後にも、私を気遣う手紙をくれたんですよ」と目を細める。子どもたちを喜ばせたいと、用意したなぞなぞや言葉遊びでもてなしているそう。



『社会福祉法人起生会』の総合福祉施設には、子どもたちと家族で賑わう不思議な日がある。その裏には地域のあらゆる世代をつなげたいという施設の思いがあった。笑顔が集まる「ほほえみこども食堂」取材した。

月に2回開かれる  
あたたかな食堂

年齢を問わず欠かせない  
人と人との関わり

大きな窓のそばに並ぶテーブル。おじいさんが愛おしそうに見つめる先は、お母さんの膝の上でオレンジに夢中の赤ちゃんだ。子どもを連れた家族がまたひと組到着し、あいさつを交わした。ここは池田市建石町にある『社会福祉法人起生会』の総合福祉施設。建物内には『特別養護老人ホーム ほほえみの園』のほか、ケアハウス、デイサービスなどの施設が集まる。たくさんの高齢者が暮らし、訪れる施設の1階で、月に2度「ほほえみこども食堂」がオープンする。よく利用するというお父さんと小学生の兄弟に出会った。「食堂が始まった頃からよく来てます。土曜はほぼ毎回ですね」とお父さん。4年生のお兄ちゃんに料理の気に入っているところを尋ねると、「うーん、バランスがいいところ」と大きなさんまのフライを頬ばった。管理栄養士が献立を決めているとあって野菜たっぷり、ボリュームもあって美味しそう。



ブルでは男の子が2人、学習指導ボランティアの先生のもとで、熱心に算数の問題を解いていた。食堂にはボランティアが数多く参加している。配膳、食材の提供、学習指導、さらにはマジックやバレーンアートなど。配膳担当のみなさんに食堂の魅力を尋ねると、次々と答えが返ってきた。子どもたちに会えること、学習指導があること。施設に入っていくやすい雰囲気があること。実際、町内に住む人が立ち寄る光景も見かけ、たくさんの方がこの場所を愛しているのがよくわかった。

「近所にあるけれどよく知らない」、「介護はまだ関係ない」ではなく、地域を巻き込んでいける場所にしたんです」と山田施設長。食堂



「何色にしようかな？」  
ぬり絵に真剣な表情

取材協力

社会福祉法人 起生会 特別養護老人ホーム ほほえみの園  
住所／池田市建石町 8-10  
TEL／072-751-9494  
HP／http://www.hohoemi-no-sono.or.jp

ほほえみこども食堂

毎月第2土曜 12:00～14:00、  
第4金曜 16:30～18:30に開催 ※休みの場合あり  
●次回 4月26日(金) ●次々回 5月11日(土)  
参加費／子ども(中学生まで)100円、保護者400円  
※原則前日までに電話予約が必要

以外にも、認知症の人やその家族が悩みを話し合う「ほほえみオレンジカフェ（認知症カフェ）」、妻の介護に備える「男の介護教室」など、施設の内外をつなげる活動を続けている。子どもも大人も、地域という同じひとつの輪の中で暮らしているのだ。大勢で食べる食事や大人たちの眼差し、施設で暮らすおじいさんやおばあさんにおばあさんにおばあさんにおばあさんと思いつく。それらの記憶は心の栄養となり、子どもたちを育むに違いない。



兄弟のボール遊びを  
温かく見守り中



利用者さんが「ここは私の地域だ！」と思える場所にしたいです  
社会福祉法人 起生会 特別養護老人ホーム ほほえみの園 施設長 山田直輝さん

池田市と「大阪府社会福祉協議会」の支援を受けて食堂がスタートしたのは、2年前の11月のこと。きっかけは福祉体験や職場体験に訪れた小・中学生たちでした」と施設長の山田直輝さんは話す。「子どもたちとふれ合った利用者さんがすごく柔らかい表情になった。『そうか、我々スタッフだけではなくて、色んな人との関わりが必要なんだ』」

多様な世代が集まる、地域に根ざした施設を作るにはどうすればいいのだろうか？ たり着いた答えが「こども食堂」だった。子どもたちが安心して食事できる居場所作りとして、全国に広がる取り組みだ。「ほほえみこども食堂」はそれに加えて、普段出